

子どもの学びをつなぐ：
附属浜松小・中学校一貫教育について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-09-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010385

～子どもの学びをつなぐ～ 附属浜松小・中学校一貫教育について

今日の教育的な課題の一つに小学校から中学校に進学したときに起こる「中1ギャップ」が挙げられる。その解消のために、これまでも小・中学連携教育のあり方が注目されてきた。そして「学校教育法等の一部を改正する法律（平成27年法律第46号）」が、2015年6月に公布され、小学校と中学校の9年間の義務教育を一貫して行う小中一貫校を制度化する法律が成立し、小中一貫校は、同法第1条で「義務教育学校」という一つの学校種になることに定められた。

このような背景の中、小中一貫教育を推進したり、小中一貫校を開設したりする市町村が全国各地で増えた。そして、昨年度より、静岡大学教育学部附属浜松小学校と附属浜松中学校においても、義務教育課程における児童・生徒の健やかな成長を願って、9年間を見通した小中一貫教育を目指していくことになった。これまでも、同じ敷地内に小学校と中学校が設置されているという地の利を生かして、両校で連携し、教育活動を行うという場面はあったが、より計画的・継続的に、その実践を始めることとした。

そして、その小中一貫教育を目指した取組の一つとして、両校の教育研究において、9年間の子どもの学びや成長を見通した連続的な教育実践を目指し、研究を進めている。

両校の教育研究を振り返ってみると、附属浜松小学校では、開校以来、子どもの自主性や創造性を重視し、「豊かな体験」「子ども主体の教育活動」「問題解決を中心にした学習」が積み重ねられてきた。2011年からは研究主題を「未来を拓き、生きる子ども」として、子どもたちに必要な資質・能力を育成しようと教育研究に取り組んでいる。

一方、附属浜松中学校では、生徒の主体的に学びに取り組む姿勢を重視しながら、よりよい社会の創造や文化の発展を担う人間を育成することを目標に、各教科・領域の特性を生かした深い学びの実践が積み重ねられてきた。また、昨年度より、研究主題を「希望の未来を拓く資質・能力の育成」に設定して教育研究に取り組んでいる。

従来 of 知識・技能を軸とした教育を、資質・能力を育成する視点から再構築していこうとする動きが、世界的な教育改革の潮流となっている今、附属浜松小学校と附属浜松中学校の教育研究は、それぞれの独自性を尊重しつつ、同じ方向を向いて進み始めている。

このような経緯から小学校と中学校が、一貫性のある研究主題の下、長期的な視野に立って研究・実践に取り組むことで、小学校では、中学校での学びをふまえて教育が実践可能になり、中学校では、小学校で身につけた力をもとに学びの質を高める教育が行われるようになる。そうすることで、日本や世界の未来を担う子どもたちに、自己実現やよりよい社会の創造、文化の発展に必要とされる資質・能力を確実に育くむことができると考える。

そこで、下記のとおり、小・中学校の共通研究主題を設定した。

附属浜松小・中学校共通研究主題

「未来を拓き生きる人」

この共通研究主題の下、それぞれの教育研究を理解し合い、互いの研究の長所を取り入

れ、短所を補い合うことによって、これまで以上の研究成果を得られるように構想した。

以下から、小中一貫教育の具体的な取組を紹介していく。同じ義務教育課程でも、教育内容の枠組み、学習指導の方法、生徒指導のあり方など、小学校と中学校では異なることが多くある。もちろん、小学校から中学校へ進学し、新しい環境の中で学校生活を送ることは、児童・生徒にとって負の側面ばかりではない。

しかしながら、小学校から中学校に進学する際に引き起こされる非連続な変化は、児童・生徒に大きな負担を負わせることも、また事実である。その中のひとつに「学級担任制」から「教科担任制」への移行が指摘されている。

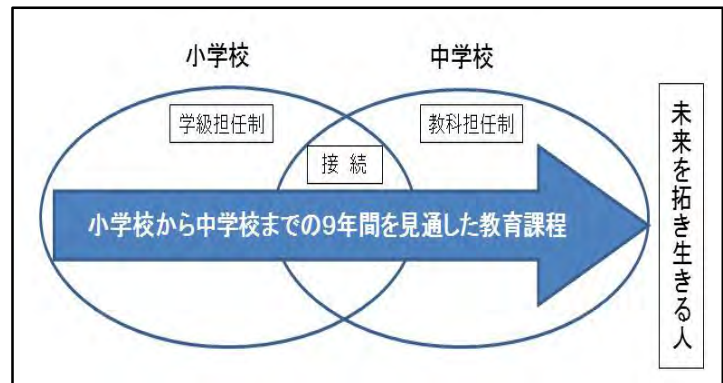
そこで、附属浜松小・中学校では、相互の教育研究を説明し合い、どのような教育観・教科観をもとに、どのような授業実践を行うのか、各教科・領域で検討する時間を設けている。

さらに、小学校第6学年では、学級担任以外の教師が担当する授業を増やし、スムーズな小中接続が行えるように配慮した教育課程を実施している。

そして、本年度からは、教育研究部、教育課程部、生徒指導部、生活創造・特活部の4つの教育活動推進部を設け、教育研究以外の視点からも小中一貫教育の充実を模索している。各推進部からは、学校行事の改編、職員や児童・生徒の交流について、幅広い意見が出された。本年6月には、小学校6年生が企画した、小学校1年生から中学校3年生の9学年で編成した縦割りグループでの活動が行われた。

附属浜松小・中学校両校による小中一貫教育は、まだ緒についたばかりであり、今後、更に具体化されていくものである。小・中一貫教育を推進することによって、教師は、小・中学校のカリキュラムや授業の独自性と連続性を理解し、一貫性のある教育を進める力量を形成することができる。

今後も研究成果を蓄積・公開し、小中学校の教師が共に成長していく過程を示していきたい。



〈附属浜松小・中学校における一貫教育〉



〈小中合同の縦割りグループ遊び〉